

アル作業が多く、属人化した業務も多く存在していることが多い。コロナ禍を経て、企業の全体としてDXが加速しているなかで、財務としても検討の機会を得ることができ、財務マネジメントに必要なしくみとしてのシステムの検討を開始している企業から相談を受けることが増えている。

財務領域でのシステム導入において、一番ハードルとなるのは、業務の標準化である。多くの企業がマニュアルで進化させてきてしまった業務と、トレジャリーマネジメントシステムといったパッケージシステムが提供している標準的な業務とのGAPに苦労されている。標準的な業務への変更を念頭に活用方針を検討する必要があるトレジャリーマネジメントシステムの導入において、そもそも標準的な業務が何かがわからなかったり、自社の業務の何を踏襲し何を改善すべきか判断できなかつたりというところで躓くケースをよく目にする。

また、一般的にトレジャリーマネジメントシステムの機能には、キャッシュマネジメント、トレジャリー&リスクマネジメント、インハウスキャッシュ等があるが、そのな

かで自社としてトレジャリーマネジメントシステムを活用すべき機能を判断できなかったり、英語名のモジュールの機能がわからないまま、実は契約していたが全然活用できていなかったりといった残念な状況も、よく聞く。導入したシステムを

しっかり活用するためには、DXシステム選定ではなく、自社の状況を踏まえ、あるべき財務マネジメント体制とシステム活用方針を構想することが大事だと考える。

一方、日本企業の話を聞いていると、残念ながら、全社DXに取り残されてしまっている財務部門も散見される。ぜひ、財務担当者には全社DX推進へ働きかけていただきたい。またDX推進担当者には本領域の取り組み効果を知っていただき、財務部も巻き込んだプロジェクト推進を期待したい。

第3章

B-活用・グループ間決済の高度化等 グローバル財務管理体制 構築の実務上の留意点

【この章のエッセンス】

●財務マネジメント体制の構築においては、海外への進出地域、事業展開モデルなど、さまざまな要因から企業によって目指す姿が異なるため、自社としての最適解を検討することが重要である。

●昨今のDXの潮流等も踏まえ、財務マネジメントの機能強化の取組事例について紹介する。

グローバル財務マネジメントの強化の方針策定

第2章では、企業のグローバルでの財務マネジメント体制の構築状況や取組みにあたっての課題をみてきた。

本章では、グローバルマネジメントの実現にあたっての管理体制や機能強化の事例、DXのトレンドを実務的な観点も含めて考察していく。

前述のとおり、グローバルマネジメントにおける理想は、海外も含めたグループグローバルでの管理体制が構築され、本社が定めた財務ポリシーに沿って、標準化された財務業務が実現されていることである。しかし、実際には、マネジメントは一極集中しているものの、時差や商習慣を考慮し、地域別に財務業務を行っている企業も多い。企業の規模、海外への進出地域、事業展開などさまざまな要因から企業によって目指す姿が異なり、財務マネジメント体